



原油先物が小動き、

米在庫増やOPECプラス減産延長見通しで

4日アジア時間序盤の原油先物価格は小動き。米国の原油・燃料在庫が増加する一方、石油輸出国機構(OPEC)とロシアなど非加盟産油国で構成する「OPECプラス」が減産を延長する見通しとなっており、売り買いが交錯している。

0145GMT(日本時間午前10時45分)時点で、北海ブレント先物は0.02ドル(0.03%)安の1バレル=73.60ドル。米WTI先物は0.03ドル(0.04%)安の69.91ドル。

3日のブレント先物は2.5%上昇し、この2週間で最大の上昇率となった。

市場筋は米石油協会(API)のデータを基に、先週の米原油在庫が120万バレル増加したと明らかにした。感謝祭があったため、通常は需要が増加する週にもかかわらず、ガソリン在庫も460万バレル増加した。

OPECプラスは5日に開く会合で、有志国による自主減産を来年第1・四半期末まで延長する可能性が高い。OPECプラス筋4人がロイターに明らかにした。



「千葉に新道路で渋滞緩和」

空港ネットワーク分科会確認

千葉県や国土交通省などをつくる「首都圏空港道路ネットワーク検討分科会」は4日、2回目の会合を開いた。事務局を務める同県の報告で、北千葉道路や新湾岸道路など県内の新たな道路整備により、既存の京葉道路や東関東自動車道といった成田空港と東京都心部方面を結ぶ道路の渋滞緩和が見込まれることを確認した。

空港の機能強化を踏まえた「高規格道路ネットワーク」の基本方針の策定に向けて意見交換した。成田空港から東京外環自動車道を最短で結ぶ北千葉道路、2024年度から概略ルートなどの検討を始めた東京湾臨海部の新湾岸道路を整備するメリットなどについて情報共有した。

分科会は9月に第1回の会合を開催し、国や県などが情報交換を進めている。県道路計画課は基本方針の策定期を「定めていない」としている。今後は道路利用者などから道路ネットワークのあり方についてヒアリングを実施する方針だ。



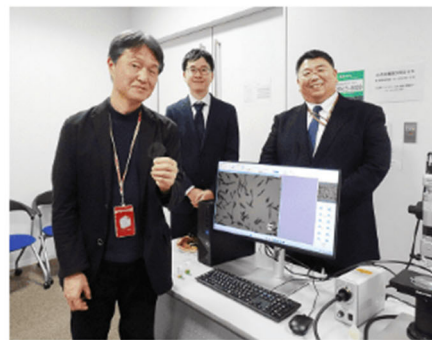
ミドリムシから接着剤

産総研—旭化成 エポキシ系 強度同等

ミドリムシから接着剤

産総研—旭化成 エポキシ系 強度同等

産業技術総合研究所は旭化成と共同で、エポキシ系接着剤に劣らない強度を持つミドリムシ由来の接着剤を試作したと発表した。ミドリムシが非常時の栄養源として体内に蓄える多糖「パラミロン」に、入手しやすい脂肪酸を組み合わせた。剥離や再接着も可能なため資源循環にも貢献する。接着剤は、軽量化につながるとして自動車業界などで需要が伸びている一方、生物由来の「バイオベース接着剤」はこれまで性能が不十分だった。ミドリムシは健康食品や



接着剤の由来のミドリムシ（フィルム状）を手にする芝上氏（左）

バイオ燃料の領域で注目されるが、接着剤など化学成品への応用は珍しい。水中に住むミドリムシは光合成によって二酸化炭素(CO₂)から栄養を得つつ、光のない場所では水中の糖を摂取するなど、植物と動物の性質を兼ね備える。光がなく、糖も枯渇した環境では、自ら蓄えたパラミロンを代謝

して生命を維持することもできる。

パラミロンの収率の高さなどから、産総研は10年以上前から生物由来材料として注目。化学修飾で熱可塑性を付与したバイオプラスチックなどに挑戦してきた。今回はその延長で、食用油脂にも含まれる脂肪酸との組み合わせを試みた。

ミドリムシからパラミロンを取り出し、化学的に脂肪酸を加えて粉末状のパラミロンエステルを得る。これを熱プレスした透明フィルムを部品同士の間で置き、さらに熱を加えると、部品同士が接着される。アルミニウム片を使った実験では、引っ張りせん断強度が30MPa(MPa)を記録した。自動車分野で使われるエポキシ系接着剤が20〜30MPa、過去に報告されていたバイオベース接着剤が最高で18MPaなので、画期的な数値となる。また接着面を冷却する

と剥離でき、再加熱すると再接着できることも確かめた。接着や剥離に必要な温度は調査中だが、設計次第である程度調整できそう。自動車向け接着剤は、ポテターなど温度が上がりにくい部位に使われる。こうした部位ならミドリムシ由来で代替できる可能性がある。今回の成果はあくまでも実験室レベルで、実用化された際のコストなどは将来の課題。研究を主導した産総研バイオメテイク部門の芝上基成氏によれば「私の本来の専門は有機化学で、バイオは素人。その私でもミドリムシの培養は難しくない。プロフェッショナルの企業が協力してくれば、培養効率は飛躍的に高まるのではないかと期待する。」



OPEC+ 原油減産延長か サウジの動向にも注目

石油連盟はこのほど、原油市場の動向に
関する勉強会を開催し
た。コスモ石油原油外
航部長の梁瀬英行氏が
説明し、5日に開催さ
れる石油輸出国機構
(OPEC)とロシア
など非加盟国で構成す
るOPECプラスの閣
僚級会合で自主減産を
継続延長する可能性が
あるとの見解を示し
た。また、来年上半年
までのドバイ原油価格
は1バレルあたり60〜80
程度で推移すると予想
した。

梁瀬氏はOPECプ
ラス以外の米国などの
増産で世界の原油供給
が伸び、2025年に
はさらに供給過剰の拡
大が見込まれるなか、
OPECプラスは原油
価格を下支えするため

OPECプラス 原油減産延長か サウジの動向にも注目

石連勉強会

12月までの日量約22
0万バレルの自主減産から
の増産開始を延期する
可能性を指摘。「3カ月
程度が最もあり得るシ
ナリオ」と推測した。
さらにサウジアラビ

アの動向に注目すると
し、14年に米国のシェ
ールガス増産に対して
の生産維持、20年に口
シアなどの協調減産へ
の離反に対しての生産
増で「価格戦争」を実

施し原油価格が急落し
た事例を紹介。非OPEC
プラスの増産が続
くと再び価格戦争を起
こす可能性もあると説
明し、「各国には収益を
最大化したい思惑があ
り、減産に不満の国も
あるが、サウジアラビ
アに価格戦争を起こさ
せないために減産を続
けるか。サウジアラビ
アは現状をどこまで我
慢できるか」がポイン
トとした。

25年の原油価格は、
地政学的リスクや米国の
トランプ次期大統領
の政策などの影響は不
明としつつ、供給過剰
が続くことから、「やや
弱め」(同氏)にドバイ
原油で1バレルあたり60〜
80程度と、24年(70
〜90程度)より低い
と予想した。

“予測不能”が新常識

ブレンド原油価格70ドル台前半～半ばも 2025年石油市場

ブレント原油価格70ドル台前半～半ばも

予測不能が新常識

2025年石油市場

トランプ氏の影響大きく

【ニューヨーク17日ワシントン】各国原油価格は、需要供給の観点から、市場が2025年比較

各油種ナリスト 関では、ネタニヤフ首相が断固支持するトランプ氏は、原油価格に大きな影響を及ぼす

残る

米油、中東諸国が、中東諸国が、中東諸国が、中東諸国が

米油、中東諸国が、中東諸国が、中東諸国が、中東諸国が

先週ブレントで明確に示された「エネルギー」がアップサイドリスク

米油、中東諸国が、中東諸国が、中東諸国が、中東諸国が

予測多ナリストも進んでいるため、近い将来、エネルギー市場は、需要供給の観点から、市場が2025年比較

ソファレンスで「現在、市場をみている人々の間では、需要、とくにこれまで成長の原動力だった中国が原因で弱気ムードが高まっているようだ。しかし新たな成長の原動力が存在する。それはインドだ」と、語っている。

(訳)燃料油脂新聞